

なるほど！うみはく
鳥羽の海のもの
使ったの楽しい体験

市立海の博物館 ☎ (32) 6006

vol.7

海の博物館では、ゴールデンウィークや土曜日、日曜日に、鳥羽の海でとれる海藻や貝殻、真珠などを使って、世界に一つだけの作品を作るさまざまな体験講座を開催します。

貝紫染め体験

完成品 コースター1枚
材料費 700円

内容 磯にいるイボニシなどの巻貝から黄色の体液を取り出して、コースターに選んだ型紙をあてて布を染めます。太陽の光にあてると、黄色に染めたところが紫色に変わります。鳥羽の海女さんたちは、



この染色法で魔除けの印を描いていたことが伝わっています。

海藻のストラップ作り体験

完成品 ストラップ1個
材料費 700円

内容 好みの海藻おしぼを星形や丸い金属の型に樹脂で閉じ込めて作ります。貝殻なども加えてデザインして、紫外線を当てて固めます。



貝殻のストラップ作り体験

完成品 ストラップ1個
材料費 700円

内容 宝貝などの貝殻や、真珠、ビーズをワイヤーに通して、ねじったり、輪を作ったり、工夫を凝らして、世界に一つしかない貝殻のストラップを作ります。

海のマグネット作り体験
完成品 マグネット2個
材料費 500円

内容 貝殻やサンゴ、シーグラスを3.5cm角の台紙の上のせて、生きものなどのデザインを考え、接着剤で固定します。台紙の裏にはマグネットが付いているので、冷蔵庫などにくっつけて使えます。



ジェルキャンドル作り体験

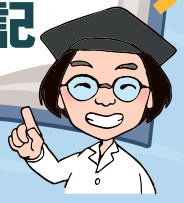
完成品 ジェルキャンドル1個
材料費 700円

内容 グラスの底に砂をしきつめ、貝殻やサンゴを並べます。透明のジェルを流し込み、固まったら2層目にも貝などを並べます。最後に色付きのジェルを入れ、自分だけの海の世界ができてあがります。



※各体験の所要時間は30〜40分です。
 来館予定日の体験内容については、海の博物館に気軽に問い合わせてください。

鳥羽・海藻文化革命
岩尾博士の
海藻博物記



vol.7

～ヒジキの話～

水産研究所 ☎ (25) 3316



磯の岩を覆うように茂るヒジキ (国崎)

この時期、干されたヒジキで海岸通りが絨毯を敷いたようになっている様子をよく目にする。黒く乾いたものは見たことがあっても、生きている姿を見たことはないという人もいるだろう。干潮時に姿を現す岩場の上に、オリーブグリーンの棒状の葉を茂らせている海藻がヒジキである。しょうゆで煮つけても、白和

えにしてもおいしいが、少し固めに戻し、サラダなどに加えてしゃきつとした食感を楽しむ食べ方もあるようだ。

われわれが食べている市販のヒジキの8割近くは中国産や韓国産である。国産のヒジキだけでは国内の需要を賅えないということか。それらの国の水揚げのほとんどは日本への輸出用で、採りすぎてヒジキが無くなっている所もあると聞く。日本でも同様である。根元を残して刈り取るのが本来の方法だが、無許可で刈る人の中には乱暴に根こそぎちぎってしまう人もいる。ヒジキは残された根元から再び増えるので、根がなくなる。それに加え気候変動や人間活動による環境変化によってもヒジキが減っている。大産地である長崎県対馬では「ヒジキ畑」の消失が深刻だ。

昔から旬の味覚や保存食材として親しんできたヒジキは、和食が見直されている現代では食物繊維やミネラル源としても重要な食材である。和食文化の継承に加え、ヒジキをはじめとした鳥羽の生物資源の「持続可能性」についても考えたい。